

備前犬島の地理學的考察 (Ⅰ)

— 現況と地域性について —

星野輝男

ここでは、備前犬島について、同島が備南の農漁村地域に含まれながら瀬戸内海の一島嶼として、自から全く異つた性格を有し独自の經濟と社會をもつた生活が展開せられてゐる點に注目して、如何にしてかゝる特有の地域的性格が招來されたかを明らかにする前提としての現況分析を試みる。

犬島は現在、行政的には岡山縣オカヤマケン久郡朝日村の一部分でありながら、また猫額大の小島であるにも拘らず、その地理的特性が同島をして一個の獨立した地域としての生活を成立せしめ、幾多の點において都市的様相を呈せしめるに至つてゐる。しかしここに至るまで、明治中期以後短年月の間に、文字通り山容全く改まる變貌を遂げ榮枯盛衰の波浪に洗われたのであり、昭和十年位より日本硫黄株式會社岡山工場の開設をみて以來、漸く比較的安定した現狀に到達したのである。

明治中期までの鬱蒼たる山峰に取圍まれての半農半漁の平穩な小島嶼部落は、日清戰爭後の大阪築港採石時代を頂點とした花崗岩石材採掘全盛期、續いていまは廢墟に名残を留めるのみの坂本、藤田、住友と三代に亘る金屬精鍊所繁榮期を経て、暫らくの空白期の後に前記現狀に落着いた。

本稿では専らこの現況について考察し、島の全般的な地域性を探求することとし、もつて他の地理學的諸考察の基礎としたい。以下述べるところは、一部分一昨夏以來であるが主として本夏七、八月に亘る現地調査第一回報告としての現狀分析に基くものである。

二

犬島は岡山縣に屬し、香川縣の小豆島、豊島に近い瀬戸内海の島嶼で、現在は邑久郡朝日村の一部であり、その最南端部落をなし大字犬島を構成している。小豆島、豊島へは共に海上約二里、同じ朝日村の沿海部落である久々井、寶傳へは共に約一里、岡山市には兒島灣、旭川を経て約二十二里の距離に位置している。犬島は一つの島ではなく、犬島本島、犬ノ島、沖鼓島、地竹子島、沖竹子島と主要な大小五個の島嶼より成り、他になお白石島、鳩島など若干の岩礁が存在している。

主島犬島本島で周圍約四料、東西一料南北最廣部において〇・七料、面積約〇・五五平方料、共に周圍約一料の犬ノ島、沖鼓島およびその他小島嶼を合すれば面積〇・六四平方料となる。小島ではあるが、附近に連続する島は無く小豆島、豊島、井島さらには牛窓町對岸の前島、黒島、黄島、青島などの他の内海諸島とは少しく距離があり、或る程度の隔絶性を保つてゐる。

犬島の地形は、人工的變容の著しい影響によつて簡單に地圖化することが不可能な程である。多くの斷崖や洞窟、十數箇に上る池沼が、石材採掘の結果として存在し、島本來の地形は殆んど想像することすら困難な位で、それが現在もなお石材採掘により變化し續けている。島の外觀は一見奇異の感を抱かしめる位に、樹木の少い、岩肌の露われた荒涼たる相貌を呈してをり、當然連續してゐるべき山峰が斷崖をなして切り刻まれ、高い山峰が削られて、全體と

しての複雑な變化を窺知することが出来る。現況よりは、余り高くない岩脈の起伏に満ちた島と思われるが、實は明治中期以前の本來の地形は、鬱蒼たる樹林に蔽われた可成り高い山が數多くあつた相當垂直的な島なのである。

海岸線は現在徒歩で一周しうる程度に保たれているが、往昔は相當急峻な山麓が海岸まで迫つており、昔からの海岸低地である浦は東谷、中谷、釜口、南浦(淡古屋)、西浦など小規模なものが五ヶ所存在しているに過ぎず、他は人工的に形成され、また變容された海岸なのである。この海岸線の外は、本來の急峻な地形より想像しうる如く極めて深淵で、遠淺という海岸は殆んど存在していない。本島と犬ノ島、本島と沖鼓島、また地竹子島、沖竹子島との間には夫々瀬戸なる名稱がある如く、いまま潮流の激しい深い箇所となつており、他も概ね海は急激に深くなつてゐる。たゞ西浦、南浦東部の一部、及び潮流の關係で時に漂着物をよく見る鳩島地鼓間の東海岸の一部には僅かの砂濱をみる事が出来る。

池沼の外、特に河川は存在せず、若干の溝渠があるに過ぎない。地下水は全島で飲料に供しうる井戸は十ヶ所程であり、犬島本島以外は水は無く、このため居住は殆んど本島のみに限られ、犬ノ島に工場が存在し、沖鼓島に二軒の

〔表 1〕
犬島井戸水の分析

面	形	物	315
石		灰	79
珪		酸	8
酸		化 鐵	5
無	水	硫 酸	8
苦		土	2.5
鹽		素	4.5

單位1000000分ノ1

家屋がある外は無入島となつてゐる。十ヶ所の井戸の中ポンプ使用は六ヶ所、モーター使用は三ヶ所にすぎない。雨が降れば井戸は一時に一杯となるが他の井戸は不適水であり、このため一般に水は不十分であり、且良水も水質は余り良くない。表1天然の湧水は殆んどないのではないかと思われ、河川のない島の天水が花崗岩の一大岩盤であるという本島の地下構造より、地下水として供給されているのである。一般的に水不足が島の住民に與える環境衛生的影響としては清潔を欠いた

め、皮膚病、消化器疾患を多からしめている。

氣候は瀬戸内海の島嶼として頗る溫暖であり晴天日數も多い。海中の島であるため、同じ朝日村の沿海部落や内陸の邑久郡各地に較べて、冬も暖かく夏は溫暖の割に凌ぎ易く、この間には微氣候として相當の相異がある。島人間の俗言に、「地方かたに三度霜が降れば島に一度降りる」というが此間の事情をよく傳えていると思う。内海特有の現象であり、特にこの地方一帯に備前風といわれる無風状態は共通であるが、雨量は高い山峯を全く欠くため僅かの驟雨の機會も素通りしてかなり少いものと思われる。雨量・風・濕度など氣候全般についての客觀的比較は資料なきため試み得ないが、次に氣溫のみについて犬島と邑久郡南部さらに岡山を比較してみる。表2、a b c d

表2の(a)は犬島における昭和二十四、二十五、二十六、二十七の毎月平均氣溫及全年平均を示したものであり、(b)は同じく邑久郡南部のものである。(a)(b)兩表の比較により犬島が同じ邑久郡内にあり乍ら、平均氣溫の上でかなり相違をもつてることが判るが、これが(c)によつて一層明瞭に示される。岡山市の永年平均氣溫は(d)であるが、同じ瀬戸内海氣候のもとにありながら、相當内陸的であることが注目される。

要するに氣溫比較を通じてみれば犬島の氣候は邑久郡南部や岡山に比し遙かに溫暖で夏も緩和された海洋氣候が示されており、この點天氣豫報など岡山縣のものより香川縣の方が近いという事實はよくこの間の相違を物語っている。

さて、右に述べた様な地理的環境の中にあつて、犬島の生活はいかにして支えられているか、島の土地利用、生産の現況について次に簡単に觸れてみる。

全島悉く花崗岩より成り、僅かに壤質砂土の畑地を有する程度であり、而も酸性土壤で作物の出來は余りよくない。僅かの平坦地は殆んど家屋が櫛比して宅地となり、畑地は斜面、丘陵、山地に展開されているが、總計しても七町歩乃至一〇町歩程度であるものと見られる。純農家は一軒も無く、現在統計上の農地としては全然認められていな

〔表 2〕

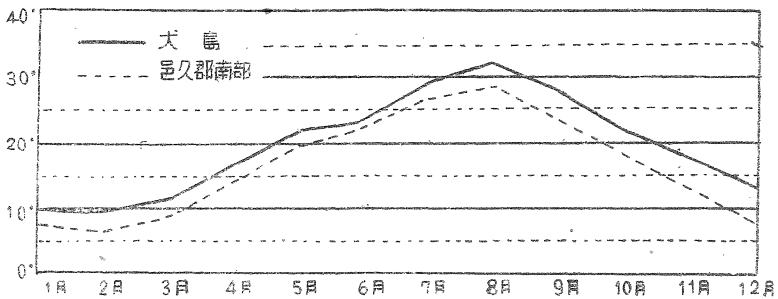
(a) 犬島の毎月平均気温並全年平均

年度 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
24	9.24	9.84	10.01	14.86	20.77	23.43	28.45	30.32	28.09	32.17	17.27	11.81	19.69
25	8.50	8.07	11.24	17.08	22.19	24.31	30.29	31.20	28.42	22.06	16.88	11.92	19.35
26	10.47	10.81	11.30	16.02	21.94	24.49	28.58	32.24	26.33	23.51	18.10	14.25	19.84
27	10.02	8.79	10.49	16.00	21.15	23.30	28.36	31.36	27.47	21.66	17.36	11.20	18.93

(b) 邑久郡南部の毎月平均気温並全年平均

年度 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
24					20.0	23.3	27.7	29.0	25.8	18.1	12.6	8.5	
25	6.8	7.0	9.0	14.2	19.2	22.0	26.4	27.3	24.6	18.0	13.6	9.4	16.6
26	10.0	9.5	9.3	14.6	19.0	21.9	25.8	29.1	22.1	19.8	13.8	8.3	17.0
27	5.3	4.8	9.0	13.5	20.3	24.2	27.4	29.7	24.9	16.0	11.5	4.1	15.8

(c) 三年間平均値による a, b の比較 (25, 26, 27年)



(d) 岡山市の永年平均気温

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
岡山	3.6	3.9	7.0	12.9	17.3	21.6	25.9	26.9	23.0	16.5	10.6	5.6	14.6

い。往昔は農地として田も存在し小作米も出していたが、現在は副業或は菜園程度に麦・芋・野菜が作られ、僅かに日常食料の一端を補うのみに過ぎず経済的には問題にならない。

漁業も專業は一、二を數えるのみで、登録を受けた漁船は二〇艘あるが皆小さなもので大方は遊漁の域に留つてゐる。

觀光その他についても、千疊岩、釜石、松茸石、烏帽子岩、祖父岩、祖母岩等の名が残つてゐるが孰れも今は痕跡もなく過去のものとなり、僅かに島の象徴である犬石のみ、犬ノ島の現在の頂上である所に、最早詣でる人も絶えて荒涼たる中に存してゐる。

瀬戸内海海上國立公園にも含まれず、二三年前まで海水浴場を開いたこともあつたが失敗に終り、岡山あたりより日歸り遊覽客も夏期など皆無ではないが、距離的時間的障礙のためこの面では全く期待されない。

此の犬島の地域的特色は、地形が極めて短い年月の間に甚しい人工的變貌をみて、昔からの農漁などの第一次産業が一應終結し、溫暖な瀬戸内海の島嶼としての隔絶性をもちつつも海上交通に便な位置を占め、用水にも恵まれて、ここに往昔とは全く異つた現在の島の經濟的性格が形成されるに至つた點にある。なお災害が極めて少く、地震にも安全で、暴風雨、高潮なども心配ない點は島の生活を易からしめてゐる。

現在の島の生活の主な經濟的支柱は日本硫黄株式會社岡山工場の存在であり、この會社との關係によつて直接間接に六割乃至八割位までの住民が生活を保つてゐる。それに續くものは石材採掘であり二割位までの比重を占め、他は海運船舶業、小賣業その他となつてゐる。これらについての詳密な内容分析は別記することとする。

(1) 陸測五萬分ノ一地圖西大寺に明示されてゐる。

(2) 朝日村役場記録及「邑久郡誌」「邑久郡史」による。

- (3) この點後述するも、岡山より二時間朝夕の巡航便船に頼る外はない。
- (4) 同島天満宮絵馬、各所圖繪などより知りうる。
- (5) 地方に欠寄濱なる地名あり源平合戦の漂着物をみたと傳えられる(「邑久郡誌」)が、難船の漂着物などは時折みられるといふ。
- (6) 同島診療所調査、一日平均二五人、患者中消化器關係一〇人、皮膚病五、六人となつてゐる。
- (7) 犬島のもとは日本硫黄株式會社岡山工場にて觀測のもの。昭和十一年以來氣温、水温については毎日觀測を行つて記録がある。
- 邑久郡南郡については邑久郡南郡地區農業改良改善普及所の農業氣象觀測のものによる。但し二十四年五月開設以來のものよりない。
- 岡山は氣象台測候所がありその公表統計による。
- (8) 安正四年邑久郡犬島新開畑檢地帳、明治四年邑久郡犬島取箇狀、明治七年檢地野帳、明治二十年地押取調表、同丈量帳、同土地台帳、同附屬地籍統計。
大正時代までは農地であつた。しかし煙害のため消滅し、現在のもは戦時中より改めて開墾されたものである。
- (9) 役場稅務帳簿及漁業組合登録船數二〇であるが漁家とは認められていない。
- (10) 此等の岩は往昔島の各所に存在し名勝として美觀を呈していたが殆んど大阪築港探石のため消滅し、いまは古老の記憶にのみ留まる。「邑久郡誌」その他。
- (11) 往石高い山峯であつた犬ノ島の頂上に犬石が安置されていたが築港時代かつての中腹以下の高さの現在地に移された。「大阪築港誌」
- (12) 「西國の犬神つき」なる病がこの犬石に詣ると癒るとの迷信あり、往昔は遠路來島するものも多くあつたという。「東備郡村志」その他。

(13) 「大島山來記」「神話犬ノ島」など天満宮由緒傳説あり。なお天満宮については菅承相西下の所大石に誘導され上陸したと傳説がある。

(14) 島の變轉期は明治中期までの時代とそれ以後とに大きく二分できる。大阪築港採石時代、それ以後精鍊所時代日本硫黃會社開始以來の現在とさらに四區分できる。

三

島の集落は家屋の密集した集合形をなしており、東谷とその周邊（東部部落）、中谷およびこれに至る道路沿い（中部部落）、釜口の西部部落、及び西請と八軒の間の會社社宅群の四つに分けられる。

狭い低地帯に殆んど集合しており、離れて散在している家屋は南浦に二戸、沖鼓島に二戸のほかは火葬場、火藥庫、壁砂製造所¹⁵⁾が夫々西、南、東の海岸に點在し、採石丁場に石工小屋が存在する程度である。會社關係として犬ノ島に工場建物及諸附屬施設があり、社宅は前記社宅集合地域のほか一般人家密集地の中に含まれて分布している。これが二四八戸一〇五一人の住む家屋の集合形成狀況であるが集落の占據狀態に極めて強い都市的傾向を認めることができる。

特殊建物施設としては、前記の火葬場、火藥庫、壁砂製造所、採石小屋、會社建物、社宅の外に、郵便局、學校（小學校、幼稚園、山南中學分教場）、診療所、巡查駐在所、神社（祠）²、天満宮、金光教教會、青年クラブ（公會堂）、米穀配給所、社宅共同浴場及購賣組合賣店、消防倉庫、それに精鍊所跡地の殘骸などがある。墓地があり乍ら寺院の無い點、旅館は二軒あることなどこれら特殊建物の種類とともに、景觀及機能の上で聊か跛行的都市性を示している。

道路は甚だ狭く而も曲りくねつて起伏勾配に富み徒歩以外の島内交通は殆んどない。¹⁶⁾ 唯採石丁場から夫々の積出し海岸までは車が通れる程度の道が斷片的にあり、南浦にはトロッコ軌道も存在している。

次に島外との交通は、海中の島であり隔絶されているため島の生活には重要な意味をもつている。先ず廣義の交通に含められる通信の面よりみると、郵便物は郵便局がありながら集配局は西大寺市神崎局であるため、島の受信発信に關しての統計は得られない。毎日一回郵便船が寶傳より往復している丈である。電話は現在島内に十七あるが朝日村とはまだしも岡山との連絡には廻線が少く不便である。結局島外との交通は船に殆んど依存せざるを得ない。

この船に依る犬島と外部各地との連絡に大きな役割を果しているのは南備海運株式會社の巡航船であり、殆んど獨占的に島に出入する旅客貨物の輸送を受持つている。同社は牛窓に本社を置き、みずほ丸(七五トン、定員二四七〇) ○高嶺丸(六三トン、定員一五六)、○高千穂丸(六〇トン、定員一二六)、○千代田丸(三七トン、定員八四)、高砂丸(三九トン、定員八五)、○はつ丸(一九トン、五八)、○旭丸(五八トン、六九)、○菊水丸(二五トン、五四) 菊丸(一九トン、三七)、山陽丸(一六トン、五三)、八千代丸(一九トン、四五)、錦海丸(五トン、二〇)、の十二隻の貨客定期船を有し、この中七隻が常に就航し、その中前記・印の五隻が犬島に寄港している。他に貨物定期船の福丸(二八トン)があり阪神方面との貨物輸送を行つている。犬島は岡山、日生航路と岡山、高松航路の仲繼地となつており、乗降積降の旅客貨物のほか乗換、積換が行われる重要據點となつていて、この定期巡航船が朝四便、夕四便犬島に寄港する。これによる最近の出入旅客數及び貨物數をみると、(表¹⁷⁾の如くである。^{18,19)}

旅客の出入は大して差はなく、一日平均四〇人位の出入があることが判る。また貨物の方は發送に較べて到着が壓倒的で、犬島の顯著な消費生活の狀況を窺うる。旅客の出入が何處と關係が深いかを(表⁴⁾)にしてみると、ここから知りうることは出入の半分程が岡山であり、これについて土庄(小豆島)、寶傳(朝日村)、牛窓(邑久郡)、久々井

〔表3〕(a) 各月旅客總數

年月	出	入
昭26, 10	1295	1260.5
11	1363	1249
12	1112.5	1081.5
27, 1	1184.5	1051.5
2	916.5	868
3	1151.5	1110.5
4	1006.5	982.5
5	1207	1146
6	851	848.5
7	1084.5	1124.5
8	1526	1499
9	1098.5	1058.5
10	1291.5	1240.5
11	1203	1189
12	940	969.5
28, 1	1008.5	983
2	988	938.5
3	1104.5	1122.5
4	1033.5	994
5	1159	1159.5
6	872.5	805.5
7	1160	1110.5

(b) 各月貨物總數

年月	出	入
昭27, 1	102	784
2	133	224
3	123	789
4	131	905
5	180	948
6	120	831
7	142	1,082
8	191	995
9	128	959
10	184	1,271
11	176	1,888
12	159	1,261
28, 1	129	856
2	111	859
3	181	809
4	148	1,040
5	170	1,163
7	178	1,042
6	208	1,306

(朝日村)、小串(兒島郡)、高松、小江(小豆島)、鹿忍(邑久郡)などが著しく、孰れも犬島と經濟的に關係深い土地が浮び出されてくるのである。貨物についてこの關係は數字上示し得ないが大點旅客と同じものというる。

この南備海運定期船以外に外部との交通輸送に關係するのは主に犬島にある船舶であり、犬島外のものとしては前記郵便船のほか毎日朝夕久々井と日本硫黄會社工場との間を往復して會社關係の十數人を運ぶ通勤船丈である。

島にある船舶數は、硫黄會社の姉妹會社である日硫産業株式會社(會社の原料、製品の輸送に當る)のものを含め

[表 4] 旅客の行先・來先 地別一覽表
(平均月數)

	犬島ヨリ 出 行先	犬島へ 入 來先
岡 山	455	470
宮 浦	5	5
阿 津		7
小 串	67	60
西大寺		8
水 門		2
切 石		
久々井	99	89
犬 島		
寶 傳	184	146
子父雁	1	5
鹿 忍	13	12
牛 窓	124	114
尻 海	1	2
瀬 溝		1
虫 明	4	4
鶴 海		
片 上	2	1
日 生	5	5
小 江	20	19
土 庄	90	89
小 瀬	1	2
高 松	51	45

て、二〇〇〜三〇〇トン級九隻、四〇〇〜五〇〇トン級一隻、五〇トン級一隻(石炭船、個人)八〇トン級一隻(油槽船、個人)と大きな船が計十二隻、漁船類(五トン以下)五〇隻(この中漁船登録二〇)がその全部である。日本硫黄會社關係の船は三〇トン一隻、五〇トン一隻で他に連絡輸送の小船二隻がある。²⁰⁾

これら船舶の活動状況を見ると、會社船舶については既述の如く問題ないとして、他の大きな輸送は油輸送、石炭雜貨扱いの二、三隻を除いて悉く石材輸送に當つてゐるのである。²¹⁾ 他は漁船として時折遊魚に用いられる外、燒玉エソンのものが、急病人や臨時の連絡に用いられる程度である。

これら船舶のための島の港灣施設としては東谷港が主要な波止場として定期巡航船の發着のほか碇泊投錨地となつ

ている。中谷港は波止場があるが主要な役割を果していない。會社の船は犬ノ島岸壁及び釜口波止場を専ら使用しており、石材輸送は夫々最寄海岸より積出しをしている。この點海の深いことは船舶輸送にとつて恵まれた條件となつてゐる。

(15) 精練所跡の殘滓の黒砂で壁塗料用砂を製造している。

(16) 自轉車は十台あるが、全く費用に供せられず、他に家畜その他は全然存在しない。

(17) 岡山よりは朝八時四〇分、午後一六・二〇、一七・〇〇、一八・三〇

牛窓、日生及び高松方面より朝六・二五、八・一〇、八・三〇、夕一六・二〇である。

(18) この統計は運賃計算より算出したもので小人は〇・五として計算してあり、賃数はこれより多くなる。

(19) 切符を買わない定期券及優待パス所持者は五名程犬島にいるが、この出入は含まれていない。

(20) 會社關係で足りぬ時は備船(チャーター)に依り、また南備海運に依存する。

(21) 戦前までは相當大型船も多く海運業も盛であつたが徵用船その他により潰滅し、いまは産出石材の輸送が主である。

四

次に島の經濟と生活の反映である人口について、その現状、動態、構成を検討し、この面よりの地域性を考察する。²²⁾

犬島の現在戸數及人口數は、二四八戸、一〇五一一人(昭和二十八年八月一日現在)であり、これを昭和二十五年十月の國勢調査における犬島分、二三九戸、九三七人、及び昭和二十二年四月調査の犬島分、二三九戸、九三七人に比較すると、後述の出生及死亡の差である自然増加數を考慮すれば、この現人口數は島の經濟的現状における大體の飽和人口を示しているものと考へうる。²³⁾ 現人口を一平方料當りの人口密度にすると一六四二人となる。犬島の屬する朝

日村全體の戸數人口は一一一六戸、五三二九人(昭和二八年八月一日現在)で、面積は一二・五七平方料、従つて人口密度は一平方料四二四人である。ここに朝日村との關係を考えると、面積は二十分の一であり乍ら、人口數はその約二割近くを占めており、密度も四倍近く、次に述べる職業構成の上からいつても全く本村とは異質的であり、濃厚な都市的様相を有する土地であることが明瞭になる。岡山縣全體の人口密度は二三六人であり、耕地人口密度に直しても一五三三人で、耕地を殆んど持たぬ犬島は極めて稠密な人口をもつ高度の經濟構造にあることが示される。²¹⁾

人口の増減狀況について、島が大體現況に安定したと思われる昭和十一年以後の數を掲げてみると(表5)の如くであり、全般的に大きな變化をみていないことが判る。戦後三、四年の生活困難期、昭和十二、三、四年頃の會社繁榮期を除くならば人口増減の幅は七十六人までであり、流動の激しい割に近年戸數人口數ともに比較的安定した不變の狀態にあることが裏付けられる。

〔表5〕 犬島の最近における人口、戸數

年度	戸數人口	戸數	人口數
昭	11,4,1	223	1000
	12	239	1080
	13	249	1131
	14	257	1276
	15	238	982
	16	235	976
	17		
	18	254	1030
	19	235	1037
	20	250	1050
	21	245	929
	22	239	939
	23	242	934
	24	242	935
	25	224	975
	26	243	991
	27	247	1024
	28,4,1	247	1010
	28,8,1	248	1051

朝日村は犬島と全く異つた職業構成であるが農漁村として大體不變の人口數を保つており、この約二割近くを占め

る犬島とは、夫々別の理由によつてではあるが表面上は不變の安定状況にあり、この數字、關係が急激に變動するものとは思われない。また男女性別數も、男四九五、女五五六人で女子が壓倒的に多く、これも朝日村が男二五六一人、女二七六八人であるのと同型で、村及び島を通じての近年の一貫した傾向である。

出生及び死亡の状況は表6の如くであり、ここに顯著なことは出生の割に死亡が極めて少いという事實である。²⁵⁾人口の年令構成は表7の如くで、特に問題はない。

〔表 6〕 出生・死亡表

年度	出生	死亡
昭 22	11	0
24	33	12
26	25	5
27	21	8

〔表 7〕 人口の年令構成

年令別	昭 26	27	28
幼年令 0) 13	371	370	361
生産年令 14) 59	543	573	569
老令人口 60 以上	77	81	80
計	991	1024	1010

〔表 8〕 轉出轉入數

年度	轉出	轉入
昭 22	33	35
24	73	70
26	98	116
27	94	76

人口異動の状態は表8の如くであり、最近の出入は年によつて異なるが、集計結果としてみるとその内に大きな違はない。昭和二十六年は會社好況のため、二十七年は不況のため夫々出入が多くなつてゐる。出入間の相異は少く一見異動状況は平穩に見えるが、件數を本村に比較すると甚だ多くその三分の一以上を常に占めてゐることと轉出入の内容には島特有の地域性が明白に示されている。轉出入件數は一〇〇〇人程度の人口數としては甚だ多いが、こ

の激しい人口異動の原因は島の經濟的現況の必然的結果を裏書きしているといえる。すなわち、會社關係の家族を含めた轉出入、石工職人の激しい轉出入、海運船乗の上下船、それに學徒の遊學歸省がこれらの主な原因となつてゐる。²⁷⁾ 然らばこの人口異動がどの範圍の土地と結びついてみられるかを表9とし、また會社従業員の出身地一覽表を表10に纏めてみると、ここに關係深い土地と人口異動の原因を窺ふことが出来る。

〔表9〕 轉出轉入地先

府 縣 別	22		24		26		27		
	出	入	出	入	出	入	出	入	
岡山									
岡山	岡山市	5	1	10	10	33	11	25	11
	邑久郡	5	5	3	2	12	6	10	4
福島	縣内	8	2	21	17	14	20	11	2
		廣島	1	1	5	6	7	9	6
香川	山口	1					2		
徳島	島根	2							
奈良	香川	2	13	1	8	5	8	11	18
東京	徳島					2	12	5	3
兵庫	愛媛					1			
大阪	大分		1				3		
	福岡			3			1		2
廣島	宮崎						1		
山口	兵庫	7	2	2	3	4	6	4	1
長野	大阪	2		9	7	4	9	3	1
	京都		1				1		
沖繩	奈良			2	4			1	
愛知	愛知			2		1			1
	長野			1					
佐賀	新潟							1	
	神奈川			1					
宮城	東京			2		3	2	4	6
	千葉			1					
計	福島		5		7	2	13	1	2
	北海道						4		
外	乗船		2		11		8		8
	下船		2		6		8		3
その他				1				1	

〔表10〕 日本硫黄岡山工場従業員出身地調べ

府縣別	人員
岡山	86
福島	20
香川	15
徳島	14
奈良	4
東京	4
兵庫	2
大阪	3
廣島	2
山口	1
長野	1
沖繩	1
愛知	1
佐賀	1
宮城	1
計	156

(註)

福島縣が多いのは主原料たる硫黄がとれる沼尻鑛山及沼尻鐵道など、福島縣に會社の本據があるからである。

〔表 11〕 センサス産業人口統計

	朝日村		犬島	
	人	%	人	%
A 農 業	578	50.5		
B 林業及狩獵				
C 漁業水産業	105	9.2	9	3.6
D 鑛 業	15	1.3	15	5.9
E 建 設 業	37	3.2	2	0.8
F 製 造 業	13	1.2	1	0.4
G 卸小賣業	68	6.0	26	10.3
H 金融保險業				
I 運輸通事業	30	2.6	18	7.2
J サービス業	13	1.2	5	2.0
K 公 務	40	3.5	6	2.4
そ の 他	243	21.3	170	67.4
有職人口數	1142		252	

〔表 12〕 犬島人口の職業構成

會 社 員	17
工 員	120
石 材 採 掘 工	14
海 運 業 員	78
船 員	14
商 (兼業を含む)	11
公吏・教員・職員など	29
雑役・人夫・仲仕	18
漁 業 業 員	2
兼 業 漁 業	5
有職人口計	324

人口の職業別構成の状態については、センサスの統計があるが、これは表11の如き明らかに統計上の誤謬があつてb及びd項に含まるべはものがその他となつてゐる。またこのセンサス分類の島の場合不適當であるので、現地で行つた實態調査の結果を表にして掲げる。これは一應現在の相當正確な職業實態を示している筈で、有職人口の職業構成よりも島の全般的な經濟地域構造を明らかに知りうるが、このより嚴密な検討は別稿に委ねる。

以上、犬島について地誌的に現況を概観することによつて、一應その地域性を明らかにした。勿論、これによつて犬島の地域性が全く解明せられたわけではないが、それはさらに個々のものをより深く掘り下げることにより果されるであらう。地理學における地域性の問題は、結局循環的なものであり、前提であると同時に結論であるという矛盾を含んでいる。²⁸⁾それ故、ここにまず現況外觀を通しての地域性を捉え、もつて犬島に關する地理學的諸考察の根柢と

なしたい。

(關西學院大學講師)

(22) 犬島は邑久郡朝日村の一部であるため、各種統計資料は別個に示されている場合は極めて少く、村全體の數字より分離することには相當煩雜な操作を要することが多い。

(23) 人口に關する統計數は、朝日村役場における戸籍、配給、統計係台帳に基く數字と、現地の實態調査に基く正確を期したものである。

(24) 昭和二十五年國勢調査、農業センサスによる。

(25) 狭い地域について出生率、死亡率を出すことは適當でないので避けるが、出生率は日本全體の平均と略同じ程度であるが、死亡率は一〇分の一位となつている。事實島には六〇才以上の人は多く、健康地であることが示されている。

(26) 戦後日本の出生、死亡率「日本地理新大系」日本の人口による。

(27) 一家來住、轉住も多く、一人で年に何回も出入している者も多い。學校は中學までであるが、それ以上は遊學の外ない。朝日村役場人口異動簿による。

(28) 昭和二十五年のセンサスであるが、表IIの如く分類が正しく行われていないので、職業構成が判らない。

(29) 能登志雄著「現代の地誌學」、尾崎虎四郎著「郷土地誌提要」

